

## 天竜川ダム再編事業環境検討委員会 第2回議事要旨（案）

日時：平成18年11月20日（月）14:00～17:00

場所：浜松名鉄ホテル（3F 松の間）

出席者：辻本委員長、青木委員、萱場委員、木村委員、笹原委員、佐藤委員、谷口委員、  
谷田委員、福濱委員、藤田委員、松尾委員（計11名）

## 1. 天竜川中下流部における環境の現況分析について

- ・ 砂利採取量と河床低下の関係分析は、ボリュームで比較検討する。
- ・ 砂利採取をしている場所（平面的、砂州形態の中のどのような場所か）などを整理し、河道形態、流況により冠水するのか等も含め、河床攪乱をある程度定量的に整理する。
- ・ 土砂移動の分析については単位を統一して整理する。
- ・ 天竜川の生物、漁場環境の問題点を整理し、焦点を絞ってまとめる。
- ・ 海岸の分析については、沖合ボリュームを分析する。
- ・ 量だけでなく質も考慮し、流入濁度、放流濁度の負荷量収支を整理する。
- ・ 幾つかの補足項目を追加し、各委員のアドバイスを受けながら、次回委員会では現況分析をある程度ひとつの流れの中でとりまとめる。

## 2. 再編事業で目指すもの

ここでの議論は、現況分析も踏まえて、本委員会では様々な視点の意見があったことを、流域委員会に提言できるよう、または、情報として提供できるものとしてとりまとめる。

## 3. 環境予測・評価

- ・ 下流河川において、水温変化もインパクトとしては重要で、生物に与える影響があるので検討する。参考に、矢作川の水温コントロールとの関係を整理する。
- ・ 注目種を決めて、インパクト・レスポンスの関係が担保されるか、逆引きインパクト・レスポンスを作成する。

- ・ 今回の予測スキームで本当に予測可能であるかの視点が重要である。
- ・ 土砂の粒径が重要であるので、次回はシミュレーションの精度を上げて示す。
- ・ 現在までのインパクト・レスポンスと、再編事業によるインパクト・レスポンスをうまくつないで整理する。
- ・ 現在までの知見に制限があるため、非常に精密な予測をしているのではないことを理解頂ける資料づくりをする。
- ・ 生物と物理の関係のインパクト・レスポンスを性急に繋ぐのではなく、少しずつフィードバックする仕組みについて検討する。
- ・ 予測の手法が本当に足るものであるのか、具体的にインパクト・レスポンスを発展させて個別具体的なシナリオを見る。
- ・ 洪水調節するとどうなるのか、最近10年の実績で示すなど整理する。
- ・ 再編事業の効果を最適化するために、ダムから河道、海岸までの施策の連携方策について整理する。

## 4. 調査計画

- ・ 調査計画についてはできるものとできないものを戦略的に整理（取捨選択）する。
- ・ 海岸の調査計画についても、もう少し踏み込んで検討する。
- ・ 土砂実験は研究的なアプローチも考慮し、環境変量を絞り込んでいく。
- ・ 今後の調査と本委員会の意思決定のスケジュールを明示する。

## 5. その他

砂利採取というものをこの川で将来にわたってどう考えていくのか。これは事業全体、環境全体に係る問題である。

以上